

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家(さくら棟)		
所在地	奥州市江刺区田原字大日195-1		
自己評価作成日	平成26年9月19日	評価結果市町村受理日	平成27年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地を利用して畑で野菜やサツマイモ等を作ってもらい自然に恵まれた環境をふるに活用し、収穫の喜びを味わっています。入居者に温泉を楽しんでもらうため、温泉のお湯を直送し、そのお湯を使った入浴サービスを提供しています。また、天気の良い日の施設周りの散歩を楽しんでもらっています。毎月写真入りの花だよりに近況報告やら次月の予定を記入して解りやすい内容にしてご家族に報告しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhou_detail_2014_022_kani=true&ji_gvovyoCd=0371200387-00&PrefCd=03&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い眺めの良い丘の広大な敷地に2ユニット型のグループホームがあり、廊下をまたいで右側に同法人のデイサービスが併設されている。きれいにデザインされた庭の一角に畑があり、入居者は、職員の手を借りながら野菜の栽培や収穫の楽しみを味わったり、ラティスに西洋あさがおを育てて開花を楽しんでいる。浴槽のお湯は、千貫石温泉からの元湯を使い入居者から喜ばれている。併設するデイサービスが休みの日曜日には、デイサービスの広い浴槽に数人で入浴し、温泉気分を満喫している。職員と入居者が常に楽しく、和やかに生活できるよう努力されている。ホームの周囲は遊歩道になっており、天気の良い日にはゆっくりと散歩を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を策定し、ホーム内に提示している。「楽しく」「笑顔で」「穏やかに」職員と利用者が一つになって生活していける介護を実践に生かしている。	会社の理念とは別に、職員が話し合いホーム独自の理念を作り、職員と利用者が共に理念を声を出して読み上げている。困ったときには理念に立ち返ることとしているが、改めて理念についての話し合いや、研修はしていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区振興会行事(文化祭、運動会等)には利用者とともに参加し、地域との交流に努めている。	地区の自治会に加入している。運営推進会議の委員でもある地区の役員さんから、常時声かけがあり、地区の行事(地区文化祭、運動会等)に参加している。また、近くの小学校で収穫した米を、子供たちが届けてくれるなど、交流も盛んに行われている。職員が講師となり、地域の方に「認知症」の理解をして頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を実施している。その際、入居者の状況、毎月の行事等について報告し、意見を聞いている。また、地元消防団から委員を派遣頂き、避難訓練等の指導を受けている。	地域振興委員さんが積極的に動いていただき、活発な意見交換ができています。地元消防団も委員となり、防災についてのアドバイスや指導を頂いている。同時に、イベント時のビデオを見ていただき、それに対する感想・提言をいただき、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題ケースについては、市に相談し問題解決に向けて話し合い報告している。	市の担当課長が運営推進会議のメンバーになっていること、同課が包括支援センターになっていることもあり、行政との連携は図られている。困難事例は、生活保護のケースワーカーより市の包括センターへ、そこから遠方の息子さんに連絡、助言・指導して改善方向に向けたケースもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を策定し、職員に周知するように指導している。緊急やむを得ない場合を除き身体拘束は行わないこととし、現在まで身体拘束は行っていない。	会社の強い方針で、拘束はどんなときでも絶対しないこととしている。これまで、利用者の立ち上がり時の転倒骨折を経験した職員たちが話し合い、転倒を防止するための工夫がされている。ソファの背中をベットに近づけて、立ち上がる際の支えにしたり、滑り止めのためゴムのマットを使用するなど、日々検討、試案している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関連する資料をホーム内に掲示し、理解を深めるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家(さくら棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度並びに日常生活自立支援事業を利用している入居者はいないが、制度に関する資料を整備し、職員とともに学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様に対し不安や疑問点について十分に説明できるよう時間を確保している。改定に関しては改定理由を文書等で明示し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、いつでも意見要望を聞くことができるようにしている。また、HP上でもお問い合わせフォームにて意見を言ってもらえるようにしている。	目安箱やホームページ上では、意見は出ていないが、推進会議の家族委員から、「職員の声のかけ方は、命令調ではないか」、「入居者に対して手を掛けすぎていないか」等の意見が出ている。又、食欲が出るような献立を考えて欲しい等の要望も出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、業務改善等の意見を担当役員に直接話し合える状況を作っており、担当役員は代表者と都度協議している。	定期的な職員会議等は行っていないが、職員が記入する連絡ノートを見て把握、共有している。職員からは、広い事業所内であることから、車椅子が不足していることや、車椅子のシャワーチェアが必要等の意見が出ている。職員の意見等は、会社に届く仕組みはできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間に関しては、職員に主婦層が多いことも考慮し、夜勤の出退勤時間に関しては考慮している。また、資格取得に関しても本人の意欲等を勘案し必要に応じた支援を行っている。給与についてはキャリアアップに応じて昇給できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コミュニケーション技術等の法人内研修を実施した。また、諸研修に関しても受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者GH協会奥州ブロックの交換研修に参加し、他ホームの知見を得られるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、本人及び家族から要望等を聴取し、それをホームでの介護支援に生かせるようケアプランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、本人及び家族から要望等を聴取し、それをホームでの介護支援に生かせるようケアプランに取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の暫定ケアプランにて支援し、1か月程度で本人への最優先支援事項を職員で協議し、ケアプランを変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望をくみ取り、話し合っ活動に生かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほぼ、毎日のように来所し、利用者様とお散歩等を楽しまれているご家族様もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほぼ、毎日のように来所し、利用者様とお散歩等を楽しまれているご家族様に対し、入居中の状況を伝え、関係性を維持できるよう支援している	近くに居住する家族は、毎日来訪して入居者と散歩をしている。家族となじみの床屋へ出かける方もいる。友人が訪ねてきたり、見学者が見えたり、外部との交流もある。職員は、家族との絆を大事に保てるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席を工夫し、食事の時は職員も間に入る。レクリエーションの際も、気の合う利用者と隣り合わせに座るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関等に入院し、そのまま退居されるような場合、利用者様のその後の状況を把握し、必要に応じて関係機関に情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴、趣味等を家族と話し合い本人の希望を聞きながら、日常生活の役割分担を決め、その人らしい暮らしが出来るように努めている。	居室担当が決められているが、職員全体で関わるようにしており、小さな情報も、申し送りで共有している。自分の思いを伝えることができない入居者はいないが、毎日のかかわりの中で希望を聞いたりしながら、できるだけ声掛けをして行動を促すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から自宅での状況を聞いたり、日常生活から見える本人の状況を踏まえ現状を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表の中に個人の行動、特徴を記載するようにし、一人一人の過ごし方を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当職員が、本人の生活状況を把握し、加えて介護支援専門員等が家族の意向を確認したうえでカンファレンスを実施し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは毎日行い、3カ月ごとに見直しをしている。家族の意向を確認しているほか、担当者会議を行い、ケアマネジャーからの情報やかかりつけ医の意見、必要に応じて前の施設での情報を組み入れて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を提供するにあたり、気づいた事を記入する気づきノートや介護実施記録の特記事項に記入し職員間で共有し、話し合う時間を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスの行事にも参加し交流を深めている。また家族が希望した場合は入居者と一緒に宿泊していただけるように対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家(さくら棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、地元消防団員の協力による避難訓練の実施等、外部と交流する機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、かかりつけ医に関して状況を確認している。当ホームの協力医から利用者の健康管理についてアドバイスを頂いている。	入居に際して、9割の方がかかりつけ医からホームの協力医に変更している。通院は、1人は家族対応であるが、それ以外の方はホームで対応している。家族が対応する際は、バイタル表や最近の情報を紙面にて提供している。予防接種は、社内の他事業所と合同で実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置していない。受診に関しては居室担当職員が生活状況等を把握したうえで、文書にて医療機関に伝え、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、終末期に関して家族と話し合いその希望に応じた支援を行っている。	入居時に、ホームで最大限できることを説明して、家族に理解を得ている。その際、今後の利用先として、特養ホームや老健施設について説明し、本人、家族の安心につなげ、実際に特養ホームに申し込みをされた家族もある。ホームとしての重度化、看取りの指針はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを全職員に配布するとともにホーム内での応急手当初期対応について、管理者の指導のもと訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団人や近隣者も含めて実施したことにより、協力体制が徐々に強まってきた。夜間想定訓練も実施した。年2回の避難訓練実施。運営推進委員の消防団や近隣からの参加をいただき実施している。	避難訓練を10月20日に夜間を想定して(14:00から)行った。近所の方4人に参加していただいたほか、消防の立会いもあり、細部について指導をいただいた。緊急通報装置も完備している。	緊急時を地域に知らせる回転灯も設置し、非常時に備えているが、地域の方に対して、ホームとして協力をお願いをしておくことも大事だと考える。又、非常時の水、食料を備蓄されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報には特に注意して取り扱っている。声かけについては命令口調や幼児言葉は使用せず、わかりやすい言葉でゆっくりと声かけをしている。	家族との面会時やトイレ、入浴介助時には特に注意をするように、職員間で意識し、共有している。利用者は、「さん」づけで呼んでおり、話しかけも、ごく自然にゆったりとした口調である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を職員からの問いかけによって自分で決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や都合を優先せず、帰宅願望時は寄り添ったり、徘徊の際は見守りや一緒に行動したり等、利用者のペースを優先させるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は自発的に行う者、職員の声かけにて行う者とさまざまだが、毎朝行われている。外出時には、一緒に話しながら本人の意向を優先し着替えを決めていただく。理容は2カ月に1回利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いて献立に反映し、利用者と職員と一緒に準備したり、食器拭き、トレイ拭きの手伝いをしている。	献立は会社の栄養士が立てているが、入居者の希望を大切に生かしている。調理や配膳は、利用者にも手伝っていただいている。季節食、行事食も取り入れており、誕生日には、手作りケーキでお祝いをしている。職員は弁当を持参し、同じ食卓で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食調査や個々の食事・水分の摂取を記録し、法人の栄養士が毎月栄養分析している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング・うがい・義歯清掃を行っているが、義歯に関しては、夜間洗浄剤を使用して水中保存をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握のために、利用者ごとに排泄チェック表をつけ、出来るだけ自分で出来るところは、手を出さずに自立支援を行っている。	「さくら棟」には、下剤で排便を調節している方が6人いる。「しらゆり棟」では、5人の方は自立であるが、見守りに対応している。リハビリパンツを使っている3人を除いて、他の利用者は、介護用品は使用していない。声掛けや誘導は、気がつかないほど自然に、穏やかに行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	音楽に合わせてホール内を歩いたり、天気の良い日は毎日施設の周りを歩き、適度な運動と水分確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿って午前中から入浴可能としている。週1回は大きい風呂に入れている。	入浴は、毎日午前中から可能である。1日おきに1番風呂を希望する方もあり、対応している。週4日千貫石温泉のお湯を運んで入浴しており、大好評である。日曜日は、デイサービスの大きな浴槽で温泉気分を味わい楽しんでいる。介助は、日勤者が担当している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて居室に限らず、ソファや畳などで休んでいただく場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人チャートに綴り、確認をしている。薬を飲ませる時には、夜勤者がセットしたものを毎食一人ひとりの確認表により確認している。病状の変化があれば、かかりつけ医に相談し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意とする分野を見つけ、洗濯物たたみ、食事の準備、後片付け、掃除等日々の役割を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、戸外に出てお茶を飲んだり歌を歌ったり、施設の周りを散歩している。ドライブと一緒に楽しく行っている。お盆や彼岸は墓参りの為に家族と外出される方もいます。	天候のよい時期には、事業所周辺を散歩しているが、寒くなってきてからは、広い共有スペースの手すりを使って、ゆっくりと歩く人が多くなっている。歩くことを続けている方は、筋力が付いてきたように感じられる。ドライブやバスハイクも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個人での金銭所持はなく、ご家族から預かってホームが小口現金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に電話をかけたいと申し出があった場合は、職員が間に入り、話をしてもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いスペースが取れているので、レクリエーション活動もゆったりとした状況で行えます。ソファ等も配置し、外の様子が見れるようにしています。天窓もあり風通しのよい状況づくりをしている。	「さくら棟」の広いスペースはミニ運動会ができる広さであり、利用者全員が集まり、体操や歩行訓練に使われている。行事の写真や、協同で制作した張り絵が展示されている。事務室はカウンターで仕切られているが、オープンで利用者を把握しやすい構造である。大きめのソファで昼寝をする方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気にいった利用者何人かで集まって会話が楽しめる場所、ソファなど、リラックスされる場所など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品、思い出の品等持ち込み可能にしている。	馴染みのある物の持ち込みは自由である。例として、「さくら棟」では、2人の方が仏壇を持ち込まれている。そのほか、椅子、ラジオ、写真、花、自分で書いた習字を貼っている利用者もいる。掃除が行き届き、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように、トイレ、居室等に大きく名前を書き、本人がすぐわかるように工夫している。日付け確認のために日にちや曜日がわかるようにホール内に表示している。		